

高知家 総合診療 専門研修 プログラム

General Medicine

Residency Program

募集案内



Lifeを診る医師

病気を診るのではなく、人を診る。

人だけでなく、地域も診る。そんな視点をもって、

併存するあらゆる疾患や患者さんを取り巻く課題に対応できる医師。

自身が連携の要となり、医療・保健・介護・福祉など多様な地域資源をつなぎながら

患者さんの生命・生活・人生を支えることのできる地域包括ケアのリーダー。

それが、高知家総合診療専門研修プログラムが目指す総合診療医の姿です。



Message



次代に向け、期待が高まる「総合診療専門医」

この冊子を開いていただきありがとうございます。あなたは「総合医とか家庭医という言葉に関心はあるけれど、本当のところ、よくわからない」と思っているのではないのでしょうか。医師を目指した頃、「自分もいつか、人々の苦痛や不安に寄り添える医師になりたい」、そう思ったのではないのでしょうか。現役の医師によるアンケート調査でも「今後、最もニーズの高まる専門医は総合診療専門医」という結果が出ています。総合診療専門医は、すでに多くの医師から「頼りにされる」存在になっています。ぜひ私たちと一緒に総合診療専門医への扉を開きましょう。

高知家総合診療専門研修プログラム 統括責任者

高知大学医学部附属病院 総合診療部 教授 瀬尾 宏美

Voice ～総合診療専攻医の今～

複数の疾患や多様な背景を持つ 患者さんをご家族を支えられる医師に

私は地域医療を志す中で、新設された制度への期待を持ってこのプログラムに参加しました。研修期間中、県西南部の中核病院である幡多けんみん病院、地域密着型の嶺北中央病院、三次救急医療機である高知医療センターに赴任。どの施設でも、指導医の心強いサポートのもと診療方針などを自分で決めさせてもらえることが多く、たくさんの貴重な経験を得ることができました。

3年間を通して何より勉強になったのは、患者さんの治療環境のマネジメントです。高齢化が進んで複数の疾患を抱える患者さんが増え、さらに社会的な問題や生活背景なども絡み合う中で、多様なスタッフと連携して治療と生活のマネジメントを行うことの重要性和難しさを実感しました。また患者さんをご家族の思いにしっかりと寄り添っていくために、例えば嚥下機能が落ちた方に対してのリハビリや、在宅の緩和ケアなどについてもっと学びたいと考えるようにもなりました。

総合診療医の需要は今後さらに高まっていくと思いますが、その分、自己研鑽やライフプランの実現と両立してフレキシブルに働ける専門領域だとも感じています。プログラムを修了してもまだまだ学びの途中ですが、総合診療医としての自分の道はここから始まると信じています。

2018年度研修開始、2020年度研修修了
西原 桜子（2014年度 自治医科大学卒業）

高知家総合診療 専門研修プログラムとは

高知家総合診療専門研修プログラム（以下、高知家プログラム）は、高知大学医学部附属病院を基幹施設とし、他に県内 31 の医療機関が連携施設として参加する全国でも最大規模の総合診療専門研修プログラムです。

高齢化や過疎化、医療資源の中央集中など多くの課題が全国に先行する高知県全域をフィールドにしており、地理的にも医療機能的にも多様な場において各施設の特徴を活かした研修が可能です。また、志望するキャリアに合わせたオーダーメイドな学びが構築できるため、将来、都市でもへき地でもあらゆる環境において責任を持って診療ができる総合診療専門医になることができます。

▶ 高知家プログラムの特徴

県内唯一のプログラム

より幅広く深い実践の場を提供するため、県内の医療機関が一体的に連携しています。

32施設が集結

三次医療を担う大学病院から地域の中核的な病院、プライマリ・ケアを担う診療所までさまざまな医療機関で構成されています。

学びをオーダーメイド

高知大学医学部附属病院を基幹施設として、志望するキャリアに応じた適切なローテーション研修ができるよう調整します。

地域に密着

地域包括ケアシステムを担う一員として、多様な経験を積むことができます。

連携重視の マネジメント

多職種協働のチーム医療
医療機関連携及び医療・介護連携
組織運営マネジメント

地域志向 アプローチ

保健・医療・介護・福祉事業への参画
地域ニーズの把握とアプローチ

公益に資する 職業規範

倫理観と説明責任
自己研鑽とワークライフバランス
研究と教育

多様な診療の場 に対応する能力

外来診療 救急医療
病棟医療 在宅医療

包括的統合 アプローチ

未分化で多様かつ複雑な健康問題への対応
効率よく的確な臨床推論
健康増進と疾病予防
継続的な医療・ケア

総合診療専門医に求められる 7つの資質・能力

プログラムを通じて、病院、診療所などで活躍する確かな診療能力と、地域包括ケアシステムのリーダーとなる資質を養います。

患者中心の 医療・ケア

患者中心の医療
家族志向型医療・ケア
患者・家族との協働を促す
コミュニケーション

一般的な健康問題 に対する診療能力



成長を支える キャリアサポート

1 ポートフォリオ発表会

年 3 回、研修中に作成した各自のポートフォリオを持ち寄って発表します。異なる研修先にいる専攻医や指導医からの質問やフィードバックを受けて新たな気づきや学びを得ることができます。

2 総合診療セミナー

コミュニティ・ケア、メンタルヘルスなど総合診療医として身に付けていくべき領域について専攻医・指導医とともに学ぶ機会を定期的に設けています。専攻医の希望に応じて内容を決め、その道のエキスパートを招聘しています。

3 各種研修会への 参加支援

日本プライマリ・ケア連合学会学術集会などの全国で開催される学会や総合診療に関する知識や技術のブラッシュアップにつながる勉強会への参加を推奨しています。参加にあたっては高知医療再生機構専門医育成支援事業を利用して、参加費・出張旅費の助成制度があります。

4 施設外指導医

救急研修や小児科研修といった総合診療専門研修以外の期間や研修施設でも、総合診療医としての学びと振り返りが途切れることがないように専攻医の希望に応じて施設外指導医を決めています。メンターとしての役割とともに定期的な振り返りやポートフォリオの作成支援を行います。



高知家プログラムは、専門研修1・2年次と専門研修3年次に分かれており、それぞれ研修の目的や内容、研修施設が異なります。

➡ 研修施設・モデルコース詳細は P.8 へ



- 患者の健康問題を把握し適切な評価を行い、Common disease については、上級医の指導のもと治療方針を決定することを学ぶ
- 患者の健康問題について心理社会的な問題を含めた評価を行い、多職種と協議しながら治療・ケアの方針を決定することを学ぶ

This map illustrates the distribution of medical facilities across Kochi Prefecture, categorized into four types:

- 総合診療専門研修Ⅱ・内科等の研修施設 (Orange):** JA高知病院, あき総合病院, 田野病院, 高知医療センター, 近森病院, 高知赤十字病院, NHO高知病院, 細木病院, いずみの病院, 高知生協病院.
- 総合診療専門研修Ⅰの研修施設 (Green):** 日高クリニック, 大崎診療所, 高北病院, 梶原病院, 西土佐診療所, 幡多けんみん病院, 大井田病院, 大月病院, 四万十市立市民病院, 渭南病院, 須崎くろしお病院, くぼかわ病院, JCHO高知西病院.
- 基幹型研修施設 (Pink):** 高知大学医学部附属病院.
- 補完研修の研修施設 (Grey):** 早明浦病院, 嶺北中央病院, 佐野内科リハビリテーションクリニック, 鈴木内科, 野市中央病院, 仁淀病院, 土佐市民病院.

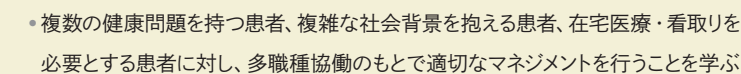
The map also shows various municipalities such as 高知市 (Kochi City), 香美市 (Komaki City), 安芸市 (Akikuni City), 馬路村 (Urahara Village), 北川村 (Kitakawa Village), 東洋町 (Toyotaka Town), 室戸市 (Muroto City), 奈半利町 (Nanbari Town), 田野町 (Tano Town), 雲西村 (Suyoshi Village), 香南市 (Kannoh City), 大豊町 (Taie Town), 本山町 (Honshan Town), 土佐町 (Tosha Town), いの町 (Ino Town), 越知町 (Chichibu Town), 白河村 (Shirahama Village), 土佐市 (Tosha City), 須崎市 (Susaki City), 中土佐町 (Nakanotsushima Town), 黒潮町 (Kuroshio Town), 四万十市 (Yamaguchi City), 宿毛市 (Shumoto City), 三原村 (Mihara Village), 土佐清水市 (Tosashimizu City), 大月町 (Ōtsuki Town).

- ・「総合診療Ⅰ」及び「総合診療Ⅱ」の双方もしくはいずれかで高知市・南国市（上図の黄色）以外にある医療機関での研修を行うようにローテートを決定します。「総合診療Ⅰ」の17施設のうち15施設、「総合診療Ⅱ」の10病院のうち3病院が高知市・南国市以外の地域にあります。
- ・「内科」「小児科」「救急科」の研修は、「総合診療Ⅱ」と同じ病院で研修を行うことを

推奨します。「総合診療Ⅱ」の病院がこれらすべての研修を提供できない場合、高知大学医学部附属病院を含め複数の病院でこれらの研修を行います。

- 「その他領域別」研修（1ヶ月単位 6ヶ月以内）は、高知大学医学部附属病院のほか、「総合診療Ⅱ」を担当する9病院で行うことができます。
- ローターは、専攻地の希望や到達目標の達成状況を考慮して調整します。

➡ 研修施設詳細は P.14 へ



専門研修における学び方は大きく以下の3つに分けられ、それぞれの学び方に習熟し、生涯にわたって学習していく基盤とすることが求められます。

On-the-job training (OJT) を基盤とし、臨床上の疑問に対して EBM の方法論に則って文献等の収集、批判的吟味を行うプロセスと、総合診療、家庭医療のさまざまな理論やモデルを踏まえ、経験そのものを省察して能力向上を図るプロセスを両輪とします。全研修期間にわたり、外来・病棟・救急・在宅の患者について個人情報に十分配慮した上で、そのプロブレムリストや自らのアセスメントを症例ログとして記録します。学習履歴と自己省察を記録し、ポートフォリオ作成を行うことで専攻医自身が成長していきます。

- 1カ月間の症例ログをもとに、指導医とともに定期的な振り返りを行います。この症例ログには、指導医とのディスカッションや文献検索で得た学びを併せて記録していき、ポートフォリオ作成につなげていきます。
- 総合診療の7つの資質・能力をより深く理解するために、総合診療の基盤となる家庭医療の理論的背景を日本プライマリ・ケア連合学会等の学術集会やセミナー、研修会に参加し学習します。
- 県内で行われる総合診療カンファレンスのほか、内科、小児科、感染症、医療安全、災害救急などの研修会に参加し学習します。
- 定期的に開催するポートフォリオ発表会に参加し、自身の作成したポートフォリオに指導医や他の専攻医からフィードバックを受け、より学びを深めます。

- ・研修プログラム内での学習を強化するために、総合診療、家庭医療等に関する各種テキスト、医学雑誌、ウェブサイト、日本医師会他のe-learning 教材、診療ガイドライン等を活用して自己研鑽に努めます。

- 研修プログラムにおいて生じる臨床的な疑問に対して問題解決型自己学習を行いながら、科学的かつ論理的思考を身につけます。
- 全研修期間を通じて積極的に学術活動を行い、年1回程度、筆頭者としての学会等の発表、研修期間を通じて一編以上の論文発表(筆頭者)を行います。
- 本研修プログラムでは、高知大学医学部家庭医療学講座、附属病院総合診療部の教員が指導医として学術活動を支援します。

専門研修1・2年次

専門研修1・2年次は、「総合診療Ⅱ」「内科」「小児科」「救急科」「その他領域別」の研修を行う施設群にて研修を行います。高知家プログラムでは「総合診療Ⅱ」と「内科」を同一施設で研修することができる施設、または両者の研修が連携できる施設群を中心に10のモデルコースを準備しています。同じ施設内で「小児科」「救急科」が研修できない場合、連携施設内の研修施設にて研修を行います。

10のモデルコース

- あき総合病院群コース
- 幡多けんみん病院群コース
- 高知医療センター群コース
- 近森病院群コース
- NHO高知病院群コース
- 細木病院群コース
- JA高知病院群コース
- いずみの病院・高知赤十字病院群コース
- 土佐市民病院・高知赤十字病院群コース
- 高知生協病院・高知赤十字病院群コース

基幹型研修施設
高知大学医学部附属病院

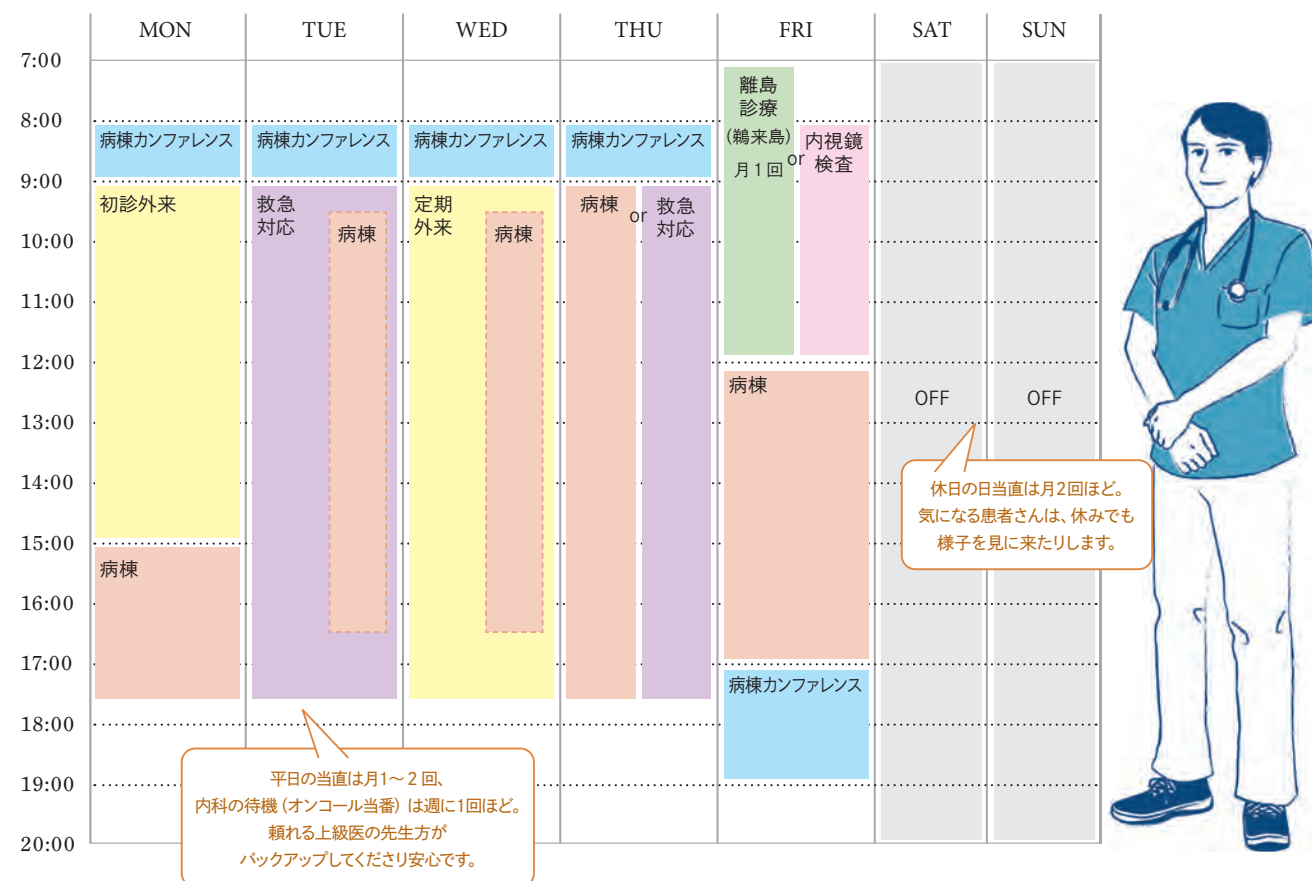


▶ 研修可能な領域

総合診療Ⅰ	総合診療Ⅱ	内科 ^{※1}	小児科	救急科
外科	整形外科	産婦人科	精神科	皮膚科
眼科	耳鼻咽喉科	その他：総合診療・漢方外来・形成外科		

※1:消化器内科、内分泌代謝・腎臓内科、呼吸器・アレルギー内科、血液内科、老年病・循環器内科、脳神経内科

▶ 専門研修1年次の1週間（高知県立幡多けんみん病院 東山医師の場合）



Model Course

1

あき総合病院群コース

地域での総合診療の先進地



あき総合病院

▶ 研修可能な領域

総合診療Ⅰ	総合診療Ⅱ	内科	小児科	救急科
外科	整形外科	産婦人科	精神科	皮膚科
眼科	耳鼻咽喉科	その他：泌尿器科		



カンファレンス



指導医 森尾真明・的場俊
総合診療医：江田雅志

▶ あき総合病院 紹介

- 救急医療から在宅医療まで Common disease を豊富に経験できる**
高知県東部の安芸保健医療圏の中心的な病院として、急性期医療から地域医療の現場、訪問診療、在宅看取りまで幅広い経験ができます。
- 他科との連携がスムーズ**
医局内は診療科別の垣根がなく、他科の医師に相談しやすい環境です。毎朝行われる入院患者のカンファレンスにはさまざまな診療科の医師が参加します。
- スタッフ全員で研修をサポート**
多職種合同カンファレンスなど看護師やメディカルスタッフとも、コミュニケーションをとりやすい環境で研修ができます。

▶ 2年間のローテーション例

1年次	2年次
総合診療Ⅱ 内科（内科・循環器内科）	小児科 内科（消化器科等） 救急科

▶ コースの特徴

- ★ 豊富な指導経験、指導医等の連携によって研修をサポートします！
- ・当院では日本プライマリ・ケア連合学会認定の総合医・家庭医養成プログラムにおいて、3名の専攻医を受入れ、指導した実績があります。認定指導医として2名が在籍し、プログラム修了後、総合診療医として1名が勤務し、指導にあたっています。
- ・地域の行政や医療機関等と連携した医療が経験できます。

Model Course

2

幡多けんみん病院群コース

The 総合診療 at 幡多



幡多けんみん病院

▶ 研修可能な領域

総合診療Ⅰ	総合診療Ⅱ	内科 ^{※1}	小児科	救急科
外科	整形外科	産婦人科	精神科	皮膚科
眼科	耳鼻咽喉科	その他		

※1:内科、消化器内科、循環器内科



多職種カンファレンス



指導医（中央）川村 昌史

▶ 幡多けんみん病院 紹介

- 地域の基幹病院としてCommon diseaseからRare diseaseまで豊富な症例を経験できる**
・約10万人の生命を守る基幹病院として1次～3次まで幅広い疾患を経験できます。
・疾患のみではなく、患者自身及びその背景因子までを考慮した診療を経験できます。
・卒前地域医療教育、初期臨床研修医教育に携わることができます。
- 垣根が低く、相談しやすい職場環境**
・診療科間の垣根が低く、各領域の専門医と気軽に相談できます。
・チーム医療が充実しており、各領域のコメディカルスタッフと気軽に相談できます。
- 幡多地域に根ざした医療を体験できる**
・月1回程度、小規模病院や離島診療所での勤務を経験できます。
・地域の行政や福祉と連携した医療を経験できます。

▶ 2年間のローテーション例

1年次	2年次
総合診療Ⅱ 内科（内科・消化器内科・循環器内科）	救急科（高知医療センター） 内科（内科・消化器内科・循環器内科） 小児科

▶ コースの特徴

- ★ 患者さんの諸問題に対応できる医師になることができます
- ・医療・保健・福祉を連携させていくためのスキルを身につけることができます。
- ・地域で必要とされる専門科のスキルを身につけることができます。
- ★ 幡多の豊かな自然や食を堪能できる
- ・奥深い山や四万十川、太平洋など雄大な自然を味わうことができます。
- ・山の幸、川の幸、海の幸が豊富で美味しい驚きが待っています。

Model Course

3

高知医療センター群コース

1施設だけで2年間の総合診療研修を完結できる唯一のコース



高知県・高知市病院企業団立 高知医療センター

▶ 研修可能な領域

総合診療Ⅰ	総合診療Ⅱ	内科 ^{※1}	小児科	救急科
外科	整形外科	産婦人科	精神科	皮膚科
眼科	耳鼻咽喉科	その他：放射線科・放射線療法科		

※1：消化器内科、糖尿病・内分泌科、腎臓内科・膠原病科、呼吸器内科、血液内科・輸血科、循環器内科



高知県ドクターヘリ「勇気の花」号



指導医 総合診療科 澤田 努

▶ 高知医療センター 紹介

1 救急医療センターとコラボレーションして複数科に渡る幅広い症例を豊富に経験できる

当院の救命救急センターには、二次病院レベルの症例も時間外に搬送されてくることから、救急の医師と相談をしながら総合診療科において救急患者さんを入院症例として急性期病棟でたくさん受け持つことができます。

2 総合診療科外来と病棟での研修を通じての一貫した継続性のある総合診療を学べる

総合診療科外来は、5列で外来を行っており、複数の疾患を抱えている患者さんやどの診療科を受診したらよいか迷っている患者さん、紹介状のない初診患者さんなど、多くの患者さんが来院されます。専門診療科の医師も多く、困った時には相談に乗ってくれる恵まれた環境です。また医学生や初期研修医と一緒に総合診療を学べます。

3 ベテランの総合診療科指導医のもとで安心して研修ができる

科長 澤田 努¹ (1991卒)、石川 忠則³ (1989卒)、吉村 彰人¹ (2005卒)、矢野 博子^{1,5} (2007卒)、伊東 秀樹² (1988卒)、石井 隆之^{1,4} (1996卒) 1: 日本プライマリ・ケア連合学会認定医・指導医 2: 日本内科学会専門医 3: 日本消化器外科学会専門医・指導医、日本外科学会専門医 4: 日本脳神経外科学会専門医 5: 日本救急医学会救急専門医

▶ 2年間のローテーション例

1年次	2年次
総合診療Ⅱ	救急科
内科(血液内科・輸血科、糖尿病・内分泌科、腎臓内科・膠原病科)	内科(循環器内科、呼吸器内科、消化器内科)
	小児科

▶ コースの特徴

★ 豊富な臨床・指導経験を有する多くの指導医の連携によって専攻科研修をサポート

高知医療センターでは、県内で唯一、総合診療専門研修Ⅱ、内科、救急、小児科、マイナー科などを一施設だけで完結することが可能です。複数の施設を行き来することに抵抗のある方にはお勧めのコースです。

Model Course

4

近森病院群コース

救急に強い総合診療医育成コース



近森病院

▶ 研修可能な領域

総合診療Ⅰ	総合診療Ⅱ	内科	小児科	救急科
外科	整形外科	産婦人科	精神科	皮膚科
眼科	耳鼻咽喉科	その他		



診断推論カンファレンス



指導医 浅羽宏一・中山修一

▶ 近森病院 紹介

1 専門性に隔たることなく、あらゆる内科疾患に対応する大内科制

「サブスペシャリティ専門医である前にジェネラリストであれ」という方針のもと、専攻医は内科に所属し、あらゆる内科疾患患者をサブスペシャリティ上級医とともに屋根瓦形式で担当しています。

2 北米型 ER 体制をとる救命救急センター

1次から3次までのすべての救急患者に対応しており、重症患者だけでなく軽症の救急疾患やCommon diseaseを内因性・外因性を問わず数多く経験できます。

3 積極的なチーム医療の取り組み

薬剤師・栄養士・PT・OTなどのメディカルスタッフを、同規模病院の1.5～2倍、各病棟に配属しており、高い専門性を持ちながら一緒に診療に当たっています。また各科の医師・メディカルスタッフとの垣根が非常に低く、コミュニケーションがとりやすい環境にあります。

▶ 2年間のローテーション例

1年次	2年次
総合診療Ⅱ	救急科
内科(循環器内科、内分泌・代謝内科、消化器内科、呼吸器内科、脳神経内科、血液内科、腎臓内科・人工透析内科)	内科(循環器内科、呼吸器内科、消化器内科)
皮膚科	小児科(細木病院)
整形外科	

▶ コースの特徴

★ 救急対応に強くなれる 幅広い内科疾患が学べ、「なんでもこい!」と自信がつく。

- ★ 経験豊富な内科系・外科系のサブスペシャリティ専門医・指導医の連携による指導体制で、足腰の強い(基礎力のある)、レベルの高い総合診療医・家庭医になれる
- ★ 病歴・身体所見を重視した診断推論カンファレンスにより外来初診時の診断能力が高まる
- ★ 漢方薬と栄養指導(栄養科と連携)で、がん患者サポート療法に強くなれる
- ★ 3年目は総合診療専門研修Ⅰとして、大井田病院での研修を予定

Model Course

5

独立行政法人国立病院機構 高知病院群コース

何処でも闘える医師になる!



NHO 高知病院

▶ 研修可能な領域

総合診療Ⅰ	総合診療Ⅱ	内科 ^{※1}	小児科	救急科
外科	整形外科	産婦人科	精神科	皮膚科
眼科	耳鼻咽喉科	その他：泌尿器科		

※1：消化器内科、リウマチ科、呼吸器内科、血液・感染症、循環器内科



研修医のためのコミュニケーション情報誌 NHO ニューウェーブ



指導医 門田 直樹

▶ NHO 高知病院 紹介

1 内科総合外来及び救急外来にて Common disease を豊富に経験できる

内科総合外来では多彩な症状を訴える新患者さんへの対応、紹介患者さんへの対応、慢性疾患の管理などを通して幅広い外来スキルを学んでいきます。救急外来においては軽症から重症、小児から高齢者まで主に1次、2次救急に対応し地域で発生する幅広い救急要請を受け入れ、地域医療の大切な一翼を担っています。重症度の判断、入院の判断や、各専門家へのコンサルトは是非について判断することが求められ、指導医とともに学んでいきます。

2 他職種との連携がスムーズ

さまざまな健康課題を解決するため、医療関連専門職との緊密な連携があります。周辺の医療機関、介護保険施設等と連携し、カンファレンスやフォーラムなどに参加し、地域包括ケアを実現している現場で学んでいきます。

3 国立病院機構のネットワークにおいて長期的なキャリアアップが可能

機構本部が主催する若手医師対象の定期的な宿泊研修や留学制度への参加が可能です。

▶ 2年間のローテーション例

1年次	2年次
総合診療Ⅱ	救急科
領域別研修(外科・呼吸器外科、産婦人科、整形外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、皮膚科、眼科)	内科(呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、リウマチ科、内科)
内科(内科)	小児科

▶ コースの特徴

★ 豊富な指導経験、指導医の連携によって研修をサポート

- ・ 病院全体に総合診療医育成についての理解があり、それぞれの診療科ではCommon diseaseを中心に学べます。
- ・ 総合診療医としてのスキルに重要な種々の研修施設に認定されています。

★ 呼吸器疾患に強い総合診療専門医になれる

日本呼吸器学会認定研修施設であり症例も豊富です。指導医自身のサブスペシャリティ領域も呼吸器科であり、Common diseaseに占める呼吸器疾患は多く、専門的に学ぶことも可能です。

Model Course

6

細木病院群コース

Hospitalist (病院総合診療医)の養成を目指す



細木病院・外来棟

▶ 研修可能な領域

総合診療Ⅰ	総合診療Ⅱ	内科	小児科	救急科
外科	整形外科	産婦人科	精神科	皮膚科
眼科	耳鼻咽喉科	その他		



ほそぎハートセンター(2020年6月開設)



指導医 総合診療科科長 細川滋俊

▶ 細木病院 紹介

1 ケアミックス型病院の特徴を“フル”に経験

ケアミックス型病院とは、急性期に特化した病院ではなく、病棟ごとに急性期、回復期、慢性期、終末期と分かれ、医療のさまざまなステージの患者さんが入院している病院のことです。そうした当院の長を最大限に活用し、急性期以降も含めた、多様な患者さんを幅広く経験できます。

2 在宅復帰と在宅サービスの係わりを“フル”に経験

当院では、ほぼ全ての病棟で患者さんの在宅復帰を推進しており、そのための、訪問リハや訪問介護、デイケアやデイサービス、グループホームといった、医療及び介護の多様な在宅サービスを展開しています。当院では、入院から退院、そしてその後の在宅療養の実態と、一人の患者さんを通して様々な経験ができます。

3 内科的な病気だけではなく、幅広い疾病を“フル”に経験

総合診療医は、あらゆる疾患の診断と治療のトリアージができる医師としての能力が求められます。内科的な病気に加え、外科的な疾病や緩和ケア、病理、1次や2次救急、へき地医療まで、幅広く経験できます。

▶ 2年間のローテーション例

1年次	2年次
総合診療Ⅱ	救急科
内科(糖尿病・内分泌内科、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科)	小児科
	領域別

▶ コースの特徴

- ★ “Hospitalist(病院総合診療医)”を養成 総合診療科での研修を中心に、上述の3つの“フル”の経験を通して、“Hospitalist (病院総合診療医)”の養成を目指します。また、プライマリケアに加えてエコー等の医療機器を使った診断能力を養い、専門性をもった総合診療医にもなれるよう育成します。
- ★ “繋ぐ”医師を養成 “Hospitalist (病院総合診療医)”として、“繋ぐ”ことを大切にしています。病院と病院、病院と診療所、家庭医と専門医、入院と在宅、医療と介護、内科系と外科系、医療人と患者・家族など、さまざまな“繋ぐ”能力を養成します。

Model Course

7

JA 高知病院群コース

総合診療・内科・小児・救急コース



JA 高知病院

▶ 研修可能な領域



多職種ミーティング



指導医 住友 賢哉

▶ JA 高知病院 紹介

1 内科、小児科を主として新生児から超高齢者まで幅広い年代の患者を診療できる
内科、外科、耳鼻咽喉科、産婦人科、小児科を含む南国市の中核病院として、外来診療に始まり、他診療所からの紹介や救急、入院患者の対応も含めた疾患に対応しています。患者層は胎児から超高齢者に至るまで幅広く、総合的な臨床経験を積むことができます。特に産婦人科や小児科を含む総合研修が可能な病院です。

2 外来では Common disease から重篤な疾患まで幅広く経験できる

Common disease から重症症例、血液透析まで、小児科においては発達障害を含めた診療を、外科においては内視鏡手術を主体とした一般外科手術を行い、幅広い診療を経験することができます。

3 入院では急性期対象の疾患から地域包括ケア病棟対象の慢性期疾患まで幅広く経験できる

内科で主体の高齢者医療は在宅復帰に導くことが重要です。急性期病棟～地域包括ケア病棟～在宅医療への一連の医療経験が可能です。具体的には病棟医療チームによるカンファレンスや自宅や施設などへの退院 支援、退院調整を行い、在宅医療へと導く多職種による協働作業を経験、習得できます。

▶ 2年間のローテーション例



▶ コースの特徴

- ★ **多職種の連携によって研修をサポート**
当院でチーム医療をベースとして、他職種の視点から機器の使用や患者さんの状態観察を行い、専攻医の臨床診療をサポートします。
- ★ **幅広い疾患に対応できる総合診療専門医になれる**
幅広い疾患に対応している病院であり、総合診療専門研修Ⅲに必要となる症例の多くを豊富に経験できます。

Model Course

8

いずみの病院・高知赤十字病院群コース

高度救急から Common disease まで緩和回復期医療も学べる



いずみの病院

▶ 研修可能な領域



院内 7階サンルーム



指導医 吉井和也・夕部 富三

▶ いずみの病院 紹介

1 経験豊富な総合診療指導医 2 名

2名の指導医はすべて診療所・中小病院から大病院のそれぞれの臨床経験が豊富です。診療所では内科を中心に整形外科、小児科や耳鼻科など科を超えて地域のニーズに添った診療を行ってきました。病気の診断治療だけでなく、検診、予防活動、地域作りまで行政や住民との連携や協働の経験も豊富です。

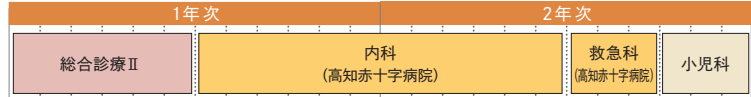
2 Common disease から稀な疾患まで経験できる

1次 2 次の救急から日常病を中心にまれな疾患まで豊富に経験できます。高知市北東部の基幹病院として、また地域のかかりつけ病院としての機能も有し、地域で起こるあらゆる健康問題に対して豊富に経験できます。

3 チーム医療の実践

一つの医局に専門医(外科・脳神経外科・整形外科・泌尿器科・循環器科・消化器科・呼吸器科・脳神経内科など)がいて日々教えてもらえます。定期的な NST、リハカンファレンス、退院調整会議など、院内外の多職種連携がスムーズです。

▶ 2年間のローテーション例



▶ コースの特徴

- ★ **豊富な現場経験のある指導医の連携によってすばらしい研修が受けられる**
- ★ **全人的医療に強い総合診療専門医**
病気だけを診ず人を診る全人的な医療を身につけることができます。
- ★ **救命救急センターを有する急性期病院・災害拠点病院**
3 次救急から Common disease まで幅広い経験ができます。また災害拠点病院として災害医療についても学べます。

Model Course

9

土佐市民病院・高知赤十字病院群コース

救急から地域医療まで



土佐市民病院

▶ 研修可能な領域



退院支援カンファレンス



指導医 植瑞希・田中華・平川 楊子・竹中 奈奈

▶ 土佐市民病院 紹介

1 内科(消化器・循環器・呼吸器・内分泌/腎臓・糖尿病・神経・血液)・外科・脳神経外科・整形外科・泌尿器科・眼科・皮膚科・耳鼻科・放射線科・麻酔科・婦人科・救急科・女性専門外来・男性専門外来・小児科・こどもこころの専門外来と、自施設内に診療科が多く幅広い研修が可能
複数の問題点のある患者様の診療～治療まで自施設内で完結できるため、総合的に考える力を身につけられます。また150床という中規模施設で、各種検査・処置などもフレキシブルな対応が可能であり、エコーや内視鏡検査なども実習可能です。

2 高知市から約30分という近距離で、地域医療を幅広く経験できる

土佐 IC から車で約5分、高知市内からはバイパスも充実。遠方の場合には職員官舎も完備しています。

3 地域医療の実践

1次 2 次救急を受け入れる急性期病棟のほか、54 床の地域包括ケア病棟を有し、多職種が連携して、急性期から在宅復帰まで一連の医療を実践しています。地域との連携を重視し、在宅医療にもつなげています。

▶ 2年間のローテーション例



▶ コースの特徴

- ★ **医局では全科の医師が和気あいあいいつでも相談しやすい環境**(常勤医 22 名・うち女性医師 6 名)
- ★ **4 人の指導医がいるため、多面的な指導が可能**
- ★ **救命救急センターを有する急性期病院・災害拠点病院** 3 次救急から Common disease まで幅広い経験ができます。また災害拠点病院として災害医療についても学べます。

Model Course

10

高知生協病院・高知赤十字病院群コース

県都での総合診療専門医の役割を知り実践しよう



高知生協病院

▶ 研修可能な領域



新入院カンファレンス



指導医 家庭医療科 佐藤 真一

▶ 高知生協病院 紹介

1 救急医療から在宅医療まで

外来医療、入院医療、在宅医療を通して Common disease を豊富に経験し、患者さんをトータルにマネジメントする能力を身につけることができます。

2 高知県下最大の在宅医療ネットワーク

強化型在宅療養支援病院(高知市の 6 つの在宅医療機関と連携し、当院 300 件・合計 1100 件訪問)として在宅⇄入院の双方に関わることで、将来病院、診療所でもその経験を生かせます。

3 連携と継続性

地域包括病棟を有しており比較的退院まで余裕があるため、担当した入院患者さんの退院後を見据えた関わりを病院スタッフや連携する在宅介護スタッフと一緒に行うことができます。

▶ 2年間のローテーション例



▶ コースの特徴

- ★ **振り返りの重視** 初診外来終了後毎回行われる振り返りと 1 週間の振り返りを通して、印象に残った事・できた事・できなかった事・次への課題を確認していくことで医師としての成長をサポートして行きます。
- ★ **地域ヘルスプロモーションの実践**
他のコースにはない特徴として、県下 5 万名の医療生協組合員が取り組む健康増進活動(地域でのサロン、こども食堂、班会、古民家カフェ)に関わり、医師が地域ケアに関わる事が社会的孤立の予防や地域住民が生きがいを持って過ごしていくのに大きな役割を果たせることを学んでいきます。
- ★ **救命救急センターを有する急性期病院・災害拠点病院** 3 次救急から Common disease まで幅広い経験ができます。また災害拠点病院として災害医療についても学べます。

専門研修3年次

専門研修3年次は、「総合診療I」の研修を行います。

高知家プログラムでは人口集中地域から中山間地域まで県内全域で17の連携施設があり、

専攻医のニーズに応じた研修施設をマッチングしています。

17の研修施設

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1 高知医療生活協同組合 高知生協病院 | 10 くぼかわ病院 |
| 2 医療法人臼井会 田野病院 | 11 四万十市国民健康保険 四万十市立市民病院 |
| 3 医療法人公世会 野市中央病院 | 12 大月町国民健康保険 大月病院 |
| 4 本山町立国民健康保険 嶺北中央病院 | 13 医療法人聖真会 渭南病院 |
| 5 地域医療機能推進機構 高知西病院 | 14 医療法人長生会 大井田病院 |
| 6 いの町立国民健康保険 仁淀病院 | 15 社会医療法人仁生会 日高クリニック |
| 7 佐川町立 高北国民健康保険病院 | 16 仁淀川町国民健康保険 大崎診療所 |
| 8 梼原町立国民健康保険 梼原病院 | 17 四万十市国民健康保険 西土佐診療所 |
| 9 医療法人五月会 須崎くろしお病院 | |

▶ 専門研修3年次の1週間（嶺北中央病院 西原医師の場合）

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
7:00							
8:00							
9:00	健診 ※特定健診・職場健診・予防接種・学校健診	初診外来	外来検査 ※心臓・腹部超音波検査・上部消化管内視鏡検査	初診外来	大川村診療所 外来	土曜外来 (初診・予約)	
10:00							
11:00							
12:00			褥瘡回診				
13:00	予約外来	訪問診療 ※特別養護老人ホーム・ケアハウス	早明浦病院 小児科研修	訪問診療 ※グループホーム・在宅	外来透析 初診外来 リハビリカンファ		OFF
14:00							
15:00							
16:00						OFF	
17:00				医局カンファ・医局会			
18:00							
19:00							
20:00							

地域の保健師さんとともに健診後フォローアップ教室を開催するなど、地域ケアのアプローチに取り組むことができました。

病院単独では小児の患者さんが少なかったため、小児のプライマリ・ケアを学ぶ機会を週1回設定してもらいました。



当直：月5-7回
待機：月4-5回
土曜日外来（午前）：月1-2回
介護認定審査会：月1-2回
糖尿病委員会：月1回

※ 訪問診療
特養：月2回（40人）
ケアハウス：月2回（30人）
グループホーム：月1回（8人）
在宅：月1-2回（4-6人）

※ その他
幼稚園・小学校健診
大川村国保運営委員会
地元企業での健康教育講演
大川村特定健診
・積極的支援対象者個別指導
・動機付け対象者へ教育講演



1 高知医療生活協同組合 高知生協病院

高知市 ・病床数：114床 総合診療I

- ・ロールモデルとなる3名の特任指導医とともに振り返りを通じて総合診療専門医に必要な知識・スキル・態度を学ぶ事ができます
- ・高知市内で最大規模の在宅療養センターを有しており、入院から在宅まで一貫した流れの中で経験できます



2 医療法人臼井会 田野病院

田野町 ・病床数：84床 小児科 総合診療I

- ・県東部の中核施設です
- ・院内・在宅において、乳幼児から高齢者まで、地域性や家庭環境等を考慮した診療を行います
- ・患者様を中心とした多職種・多機関連携、産業医活動等を通して気づきの多い研修が経験できます



3 医療法人公世会 野市中央病院

香南市 ・病床数：171床 総合診療I

- ・外来からの直接入院だけでなく、近隣の先生からの紹介や、高知市内の高度急性期病院からの転院が多数あります
- ・地域包括ケアシステムの中で、地域の中核病院がこういった役割を果たすべきか、制度も含めて勉強することができます



4 本山町立国民健康保険 嶺北中央病院

本山町 ・病床数：99床 総合診療I

- ・地域の中核病院として、急性期から慢性期を担い、救急では、高次医療機関と連携して幅広い患者に対応しています
- ・行政と協力して、検診、住民教育を含め、在宅医療、地域包括ケアシステムの構築に取り組んでいます



5 地域医療機能推進機構 高知西病院

高知市 ・病床数：165床 総合診療I

- ・急性期疾患だけではなく、回復期リハビリテーション、透析医療、健診にも関わりながら、一般内科として幅広い疾患のさまざまな病態の患者さんを他科とも連携しながら全人的に診療することができます



6 いの町立国民健康保険 仁淀病院

いの町 ・病床数：100床 総合診療I

- ・地域の中核病院として急性期から慢性期の医療を担い、幅広い症例の研修が可能で、訪問看護ステーション、介護老人保健施設を併設しており、在宅医療や医療介護の連携による地域包括ケアシステムなど地域医療を学ぶことができます



7 佐川町立 高北国民健康保険病院

佐川町 ・病床数：98床 総合診療I

- ・内科診療の特徴は総合診療を行っていることです
- ・一人の患者さんを包括的にそして責任を持って診療しています
- ・介護保険と医療の連携を重視し、退院調整などを丁寧に行っています



8 梼原町立国民健康保険 梼原病院

梼原町 ・病床数：30床 総合診療I

- ・梼原病院は良質なプライマリ・ケアの提供と救急医療の確保、積極的な保健予防活動を通して地域の医療ニーズに応えます
- ・行政や介護サービス部門とも協働し、町全体で住民の健康を守る地域包括医療・ケアを学んでください



9 医療法人五月会 須崎くろしお病院

須崎市 ・病床数：158床 総合診療I

- ・高幡地域の2次救急病院として、内科系、外科系とともに幅広い初診患者の症例を経験できます
- ・緩和ケア病棟もあり、がん末期患者さんへの対応も学べます
- ・在宅での看取りも行っており、訪問診療、在宅医療も十分に経験できます



10 くぼかわ病院

四万十町 ・病床数：172 床 総合診療Ⅰ

- ・高幡地域の中核病院として、急性期から慢性期までを担い、人工透析患者 50 名の診療も行っています
- ・介護老人保健施設、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所を併設しており、在宅へとつなげる医療を提供しています



13 医療法人聖真会 渭南病院

土佐清水市 ・病床数：105 床 総合診療Ⅰ

- ・外科の専門医が縫合等の小手術や外科全般に対する急性期～在宅までの治療について教育・指導にあたります
- ・外傷疾患に関しては整形外科の知識や技術を習得することも可能です



16 仁淀川町国民健康保険 大崎診療所

仁淀川町 ・病床数：無床 総合診療Ⅰ

- ・地域住民に一番身近なへき地診療所であり、地域包括ケアシステムの中で、多種多様な疾患や健康問題への対応、多職種での連携や予防医学的アプローチなど、領域を問わない総合的な医療対応を行っています
- ・令和3年からは診療所が新しく建て変わり、より充実した環境で診療を行います



11 四万十市国民健康保険 四万十市立市民病院

四万十市 ・病床数：99 床 総合診療Ⅰ

- ・幅多医療圏で最も人口の多い四万十市の中心部にあります
- ・急性疾患への対応と慢性疾患の管理を同時に研修できます
- ・実践重視であらゆる疾患の治療を経験できます
- ・医師不足の地域であり地域医療にも貢献できます



14 医療法人長生会 大井田病院

宿毛市 ・病床数：50 床 総合診療Ⅰ

- ・幅広い内科疾患や簡単な外科的処置に対して知識や臨床能力を十分に発揮できる現場で、臓器に特化しない総合的な医療を展開できます
- ・在宅医療にも積極的に取り組み、地域のゾーンディフェンス型医療を習得できます



17 四万十市国民健康保険 西土佐診療所

四万十市 ・病床数：19 床 総合診療Ⅰ

- ・総合診療科を標榜し、病棟では主に慢性期の患者対応のほか、老人福祉施設、保育、小・中・高校の校医等も行っており、西土佐地域で唯一の医療機関として、幅広い対応を行ない、地域の多面的ニーズに応えています



12 大月町国民健康保険 大月病院

大月町 ・病床数：25 床 総合診療Ⅰ

- ・救急対応や外傷診療などの急性期医療から、訪問診療や生活習慣病の管理などの慢性期医療まで、幅広い診療に当たっていただきます
- ・希望があれば沖の島での離島診療支援業務に携わることも可能です



15 社会医療法人仁生会 日高クリニック

日高村 ・病床数：無床 総合診療Ⅰ

- ・日高村内唯一の医療機関として村民のかかりつけ機能を果たしており、小児から高齢者まで地域が必要とするプライマリ・ケアの実践と高齢者の医療・介護連携を学べます



高知家総合診療専門研修プログラム

Q&A



Q. SEED (地域枠) でも研修できますか？

A. できます！ SEED の皆さんは初期研修修了後 7 年の勤務義務があり、そのうち 3 年 6 か月以上を高知市・南国市以外で勤務する必要がありますが、このプログラムでは、最大 2 年 9 か月を高知市・南国市以外で行うことが可能です。



Q. 2017 年度以前に初期研修を修了している場合はどうなりますか？

A. 当プログラムでの研修が可能です。



Q. 身分・給与はどうなりますか？

A. 専攻医は 3 年間の研修期間を通して、高知医療再生機構の常勤職員として雇用されます。勤務時間、休日・休暇、給与、宿舍等については研修先の医療機関の規定に従います。なお、給与については各研修施設の常勤職員相当額を基本としています。さらに一時金を支給し、施設による給与額に大きな差が生じることがないように配慮しています。（詳細については個別にご案内しておりますので事務局までお問い合わせください）



Q. 妊娠、出産といったライフイベントへのサポートはありますか？

A. あります！ 研修期間中は研修施設が変わっても高知医療再生機構の常勤職員であることは変わりません。従って、産休・育休についても保障されますし、当直や時間外対応についても個別の相談に応じて柔軟に対応しサポートします。



Q. 研修中に大学院に入学することはできますか？

A. できます。統括責任者と協議の上、大学院へ社会人入学が可能です。



Q. 研修修了後はどうなるのでしょうか？

A. 家庭医、病院総合医として働くことをサポートします。希望によりサブスペシャリティを深めたい場合には新・家庭医療専門医（日本プライマリ・ケア連合学会認定）や病院総合診療医（日本病院総合診療医学会等により協議中）研修に進むことができます。また、臨床研究に力を入れたい場合には、臨床研究フェローシッププログラムも準備されています。



患者さんの疾患や周辺の問題を 包括的・継続的に診る

2018年度研修開始、2020年度研修修了

江端 千尋 (2015年度高知大学医学部卒業)

救急や急性期だけ切り取るように患者さんを診るのではなく、患者さんの健康への不安や日々の暮らしに常に寄り添える医師でありたい——そんな思いで総合診療医を志した江端医師に、研修期間を振り返ってもらいました。



Carrier Image

Learning & Training

さまざまな疾患を判断、
フォローできる総合診療医に

総合診療医は、専門性の対極にあると思われがちですが、実はそうではありません。高齢化が進む中、複数の疾患や問題を抱える患者さんが増えていますが、総合診療医がさまざまな疾患に対して適切な判断やフォローをしながら、必要があれば専門の科に紹介したり包括的な支援につないだりすることで、そういった患者さんもいくつもの病院を回ることなく安心して地域で暮らしていくことができます。本プログラムの研修を通して、それこそが総合診療医の専門性だという確信を得ることができました。

患者さんご家族のいちばん近くで寄り添い、支える

私は1年目は高知医療センターで主に専門科をローテーションして学び、2年目は県東部の中核病院である高知県立あき総合病院で一般内科を中心に経験を重ねました。そこでは、住み慣れた地域で最期を迎えたいという患者さんの思いや、地域で医療が完結できる満足感に触れることができました。3年目の野市中央病院では、地域の規模が小さい中で、多職種連携による退院調整や在宅医療など経験の幅も広がりました。患者さんやご家族と深く関わり、病気だけでなくその人の思いや背景も診る。それが総合診療医の魅力です。ぜひ多くの研修医の皆さんに目指していただければと思います。

My Ambition

来院された患者さんの病気の診断がついたり、症状が改善し元気になる姿を見るのが、今の私の一番の喜びです。いずれは、小・中規模の病院で患者さんやご家族に寄り添った医療を実践していければと考えています。



指導医から

当院は、地域に根付いた中核病院として、近隣の診療所からの紹介および高次の医療機関からの転院が多数あり、救急指定病院として年間300台前後の救急搬送を受け入れています。外来での疾患も多岐にわたり、様々な症例が経験できますし、他科の先生にも気軽に相談ができるため、知識の幅が広がる環境にあります。また、特別養護老人ホームオーベルジュも併設しており、医療と福祉の連携についても勉強できます。香南市は、高知県の中でも人口減少が少ない地域で、若い世代もたくさん住んでおり、また病院の場所は、南海トラフ大地震による津波からも安全とされています。

野市中央病院 院長 公文 龍也 先生



緊急性の高い病気を判別できる 確かな臨床能力を養う

2018年度研修開始

東山 祐士 (2014年度自治医科大学卒業)

高齢化が全国に10年以上先行する高知県で、総合診療やへき地医療に携わり地域に貢献すると同時に、これからの日本に必要な医療を学びたいと考える東山医師。今後の展望をお聞きました。

1年次 高知医療センター (内科、救急科) → 2・3年次 梶原病院 (総合診療Ⅰ、内科) → 4年次 幡多けんみん病院 (総合診療Ⅱ、内科、小児科、救急科)

※自治医大卒業医師は、県の人事との調整により研修を延長する場合があります。



Carrier Image

Learning & Training

患者さんの最初の窓口として
症状や疾患を選り分ける力を磨く

総合診療医として大切なのは、やはり自分が患者さんの最初の窓口として、それがよくある疾患なのか稀な疾患なのか、あるいは危険な症状なのかそうではないのかを選り分けることです。十分な設備のない中で診察することも多いので、身体所見や病歴などから推察することも必要になってきます。そのセンス、能力を磨くことが重要だと感じています。その点、1年目の高知県立幡多けんみん病院では多様な疾患の患者さんを診察し、より実践的な経験を積むことができました。また月に一度、離島の鶴来島での診療も経験。廃校になった小学校の保健室を診療所に、へき地医療の現場を学ぶことができました。

病気を治すだけでなく、どう付き合っていくかを考える

2、3年目にお世話になったのは山間部の梶原病院です。幡多けんみん病院が救急を受け入れる側だったのに対し、梶原病院は救急患者を送り出す側。どこまでなら自分で診られるのか、どこからは送った方がいいのかという線引きをここで学ばせてもらいました。今後、高齢化が加速する中、病気の治療はもちろん、どう病気と付き合っていくかがより重要になってきます。それを担うのは総合診療医。大きな使命を感じています。



My Ambition

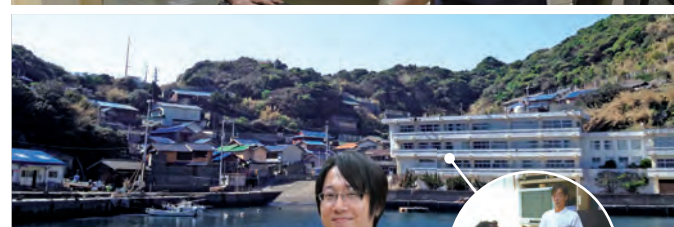
臨床では病歴聴取に加え、患者さんを直接診たり聴いたり触れたりして身体で覚えるという経験を積むことが多いですが、学会に参加し、常に最新の医学知識を学ぶことも重要だと感じています。その両輪で、患者さんを支えていきたいですね。



指導医から

幡多けんみん病院内科では総合診療Ⅱ及び内科領域の研修を行います。これまで3名の日本プライマリ・ケア連合学会認定の総合医・家庭医養成プログラム専攻医の指導実績があり、現在も2名の総合診療専門医を目指す専攻医を指導しています。幡多地域の最後の砦として、よくある疾患から希少疾患まで幅広く経験でき、日常診療で必要となる各種手技の習得も可能な体制を整えています。また疾患のみではなく、生活者としての患者・患者背景を視野に入れた対応を学んでいただけるよう心がけています。幡多地域の豊かな自然を楽しみながら、ぜひ一緒に総合診療専門医を目指しましょう。

高知県立幡多けんみん病院 内科部長、感染管理部長、研修管理センター長 川村 昌史 先生





＼高知家プログラム Web動画はこちらから！／



高知家総合診療専門研修プログラム

応募手続き・選考方法

応募：高知家総合診療専門研修プログラム統括責任者に必要書類を提出
(詳細は Web サイト参照)

募集定員：12名／年

研修期間：3年間

採用試験：書類選考・面接

処遇・手当：一般社団法人高知医療再生機構及び研修病院の規定による



お問い合わせ先

高知家総合診療専門研修プログラム事務局 (高知大学医学部家庭医療学講座)

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮

メール kochisogopg@gmail.com 電話 088-880-2761

Webサイト <http://kochisogopg.com/>

